

Urban Safari

[アーバン サファリ]

日之出出版

Mar.2023 Vol.32

Cover Story

ハビエル・バルデム

Jackets that will Overhaul
Your Spring Look.

貫禄の快適ジャケット。



JUDE LAW & RAFF LAW

Brioni



GIORGIO ARMANI

Contents

- 06 COVER STORY ハビエル・バルデム
- 09 In Your CLOSET
- 14 快適ジャケットもダブルを選ぶ。
- 22 SAKURA COCKTAIL
- 24 ELEVATE YOURSELF
- 28 都会派ゴルフスタイルが変化しているようです。
- 34 HOUSETRAD
- 35 Gastronomic City NIIGATA

Olivia Crouan

オリヴィア・クルアン／オーデマ ピゲ チーフブランドオフィサー

写真＝正重智生 文＝遠藤 匠

photo : Tomoo Syoju (BOIL) text : Takumi Endo

夢や創造性を喚起する存在であるために。

世界三大時計ブランドと呼ばれるスイスの名門マニュファクチュールメゾンにして、革新的なウォッチメーカーとしても存在感を放ち続ける〈オーデマ ピゲ〉。1875年に創業し、今なお創業者一族によって経営される老舗が世界の時計愛好家に愛され、特別な存在であり続けている理由は果たしてどこにあるのか。その一端を担うのが、チーフブランドオフィサーのオリヴィア・クルアン氏だ。

「私の職務は、〈オーデマ ピゲ〉という“塔の番人”です。マニュファクチュールが受け継ぐ伝統や職人技を、世界の時計愛好家と共有することが一番の目的です。しかし、そのためには、時代の変化に目を配り、同時にお客様の声にも耳を傾けなくてはなりません。そうした声に応えながら、メゾンが本来あるべき姿、つまりオーセンティックであり続けているのか。

それを見守る必要があるのです」

今春から“SEEK BEYOND(時計の先へ。想像の先へ。)”という新しいメッセージを発信している。

「感動を与えるタイムピースや体験を創造し、人々の心に語りかけていく存在でありたい。そんなブランドメッセージを、SNSなどのデジタルメディアを通して発信しています。ラグジュアリーブランドは多くの人に夢を与えられる存在であり、それが私たちの役割でもあります。このメッセージを通して当社のルーツやクリエイティビティに共感していただくことで、夢を抱いたり、新しい活動に一步踏み出す勇気を持つきっかけになってほしい。そんな思いが込められています」

夢や創造性を喚起する存在であり続けることでブランドを愛する人々の輪を広げ、絆を深めていく。そのスタンスから、老舗が老舗たる所以が垣間見える。

発行人&編集長
Publisher & Editor in Chief
藤原 晃
Akira Fujiwara
メディア事業部 部長
Director of Media Division
成井 毅
Tsuyoshi Narui

アートディレクター
Art Director
藤澤拓也
Takuya Fujisawa (ANAGUMA)
デザイナー
Designer
渋谷裕子
Yuko Shibue (ANAGUMA)

コントリビューティング・エディター&ライター
Contributing Editors & Writers

遠藤 匠
Takumi Endo
大嶋慧子
Keiko Oshima
古関千恵子
Chieko Koseki
柴田 充
Mitsuru Shibata
中村孝則
Takanori Nakamura
渡邊ひかる
Hikaru Watanabe

●本誌掲載商品の価格表示はすべて税込み価格です。
●本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。
●本誌の編集内容に関するお問い合わせは日之出出版代表番号までお願いいたします。
なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

発行
株式会社日之出出版
〒104-8505 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス7F
代表☎03-5543-2221
広告☎03-5543-1131

〈オーデマ ピゲ〉

1875年に、スイス高級時計発祥の地・ジュウ渓谷で創業。創業一族による独立経営を守る稀有な時計メゾンとして、革新性に富むタイムピースを生み出し続ける。1986年に、世界初の自動巻きトゥールビヨン搭載ウォッチを発表。1972年にラグジュアリースポーツというカテゴリーを創出した、“ロイヤル オーク”などが代表作。



PROFILE

1969年、スペイン生まれ。6歳で子役となる一方、10代はラグビー選手として注目される。その後ピガス・ルナ監督に見出され、スペイン映画界で活躍。『ハイヒール』『ハモンハモン』などに出演した後、アメリカ映画『夜になるまえに』でアカデミー賞主演男優賞候補となる。そのほか、『BIUTIFUL ビューティフル』『愛すべき夫婦の秘密』でも同賞部門の候補に。『ノーカントリー』では同賞助演男優賞を受賞している。現在は、『DUNE / デューン 砂の惑星』の続編などが公開待機中。

JAVIER
BARDÉM

【ハビエル・バルデム】

写真＝AFLO 文＝渡邉ひかる
photo by AFLO text : Hikaru Watanabe

ハビエル・バルデムといえばスペインが誇る名優で、ペドロ・アルモドバルや故ビガス・ルナなど、同国を代表する映画監督たちの作品でキャリア初期から実力を発揮。その活躍ぶりは国内に留まることなく、現在に至るまでアカデミー賞に4度ノミネートされている。そのうちの1作、『ノーカントリー』では不気味な殺人鬼を怪演し、アカデミー賞助演男優賞を受賞。また、大作映画でインパクトを放つことも多く、『007 スカイフォール』や『パイレーツ・オブ・カリビアン／最後の海賊』で彼を知る人も多いだろう。まさに、これ以上ないほど輝かしいキャリアを築いてきたわけだが、それに加え、妻は美しきベネロペ・クルス。2人の子供にも恵まれ、公私共にパーフェクトな人生を歩んでいるように見える。

そんな完璧男ハビエル・バルデムだが、この期に及んでまだ特技が!? と驚かされたのは、彼がミュージカル映画に出演したからだ。『グレイテスト・ショーマン』の音楽チームが楽曲を手掛けた新作『シング・フォー・ミー、ライル』に、主要登場人物の1人として参加。歌とダンスの本格的パフォーマンスを披露しているのだが、ご安心を。実はもともと歌とダンスの才能を秘めていた! というオチではないようだ。

「なぜ僕に出演オファーが?」と不思議に思ったよ。歌手でもダンサーでもないのにね。きっと、監督たちは予想外のことをもたらしてくれる役者を探していたのだと思う。歌唱シーンのためには、たくさんの練習が必要だった。慣れていない領域に声を広げるのは時間がかかるものだからね。素晴らしい作曲家、ヴォーカルコーチ、監督、プロデューサー、音楽スーパーバイザー、そして楽曲が僕を助けてくれた。ダンスに関してもそう。以前、『愛すべき夫婦の秘密』で少しだけ踊ったことはあったけど、この作品で挑戦したのは、ダンサーではない僕にとってはとても複雑なミュージカルナンバー。多くの時間と努力を要したし、まさに不安だらけだったよ」

製作陣が「予想外のことをもたらしてくれる役者を探していた」のだとしたら、それは『シング・フォー・ミー、ライル』自体が予想外の驚きにあふれた映画だからかもしれない。人気の絵本を原作にした本作には、なんと“歌うワニ”が登場。魅惑の歌声を持つワニのライルを相棒に、ハビエル演じる

ショーマン、ヘクターがひと儲けを夢見るところから物語は展開していく。

「ヘクター・P・ヴァレンティは自称“舞台と銀幕のスター”で、パフォーマーとして生計を立てることを心から望んでいる。でも、そのためには相棒が必要なんだ。そんな中、ワニのライルという最高のパートナーを見つけ、彼に歌とダンスを教え込む。ヘクターを演じるうえで重要だったのは、他者との関わり方だね。彼の言動や仕草、リアクションが笑いを誘い、ユニークな人物にしている。演じていて、本当に楽しかったよ。その一方で、彼の外見も大きなポイントだと思う。古い時代と新しい時代の間にあるような風貌が、ヘクターの誇らしげな人となりを雄弁に物語っている。衣装とヘアメイクのおかげだね」

少々怪しげで、胡散臭さもあるヘクターの野望は叶うのか。それは本編を見てのお楽しみだが、ライルとヘクターの“相棒関係”も見どころのひとつ。CG製のキモかわいいライルに、歌手のショーン・メンデスが歌声を吹き込んでいる。

「なにもない空間で演技をしたり、CG処理用にワイヤーやライトをまとった人と一緒に演技したりすることになにも戸惑いはなかった。そもそも、役者は想像力や直感を生かしながら演じるものだ

から。それより、緊張したのはショーン・メンデスとのデュエットだね! 最終的に僕の声と彼の声が合わさると知り、レコーディングではワクワクすると同時にものすごく緊張した。けれど、それ以上に気にしなくてはならないことが山ほどあって。英語の歌詞を正確に、ちゃんと歌うことに集中しなくてはならなかった」

映画俳優としてのキャリア30年を超えるオスカー俳優が緊張しながらレコーディングブースに立ち、新たな挑戦に臨んだのだと思うとひたすら頭が下がる。チャレンジの理由は「コミカルでおかしなキャラクターを演じ、不慣れなダンスや歌を披露するということ。そして、ワニと非常に美しい関係を持つこと」に興味を抱いたのはもちろん、「自分の子供たちをはじめ、すべての子供たちが最高の時間を過ごせる素敵で感動的な作品を作りたいかったから」だという。そんなハビエル・バルデムの今後の新作に、ディズニーのミュージカル映画『リトル・マーメイド』が控えているのも気になるところ。こちらでも彼の歌声を聴くことができるかどうかはまだ定かでないが、役者としての挑戦と父親としての思いが交わる瞬間は再び見られそうだ。ハビエルはトリトン王役を演じている。監督はロブ・マーシャルで、日本公開は6月9日。



『シング・フォー・ミー、ライル』

売れないショーマンのヘクター（バルデム）は古びたペットショップで、魅惑の歌声を持つワニのライルに出会う。ヘクターはライルを相棒に舞台に立とうとするが、ライルはステージ恐怖症でショーは大失敗。そんなライルの前からヘクターが姿を消した何年か後、ライルの潜む家にある一家が越えてきて……。監督は『俺たちフィギュアスケーター』のウィル・スベック&ジョシュ・ゴードン。●3月24日より、全国ロードショー

It takes time to expand one's voice into unfamiliar territory.

慣れていない領域に自分の声を広げるには時間がかかるものです。

ハビエル・バルデム

Elegance is an attitude

UTA

UTA

LONGINES



shop online www.longines.jp

THE LONGINES
MASTER COLLECTION



In Your CLOSET*

男たちの憧れであり続ける英国のダンディズム。

英国を代表する名門〈ダンヒル〉は、今年創業130周年を迎えた。その精神はいつの時代も変わらず、男たちを魅了してきた。誕生したニューコレクションは、ヘリテージを継承しつつ、モダンに進化を続ける。

写真＝野口貴司 スタyling＝中川原 寛 ヘア&メイク＝中嶋竜司 文＝柴田 充 構成＝大嶋慧子 撮影協力＝ブローチャーズ原宿店
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara (CaVN) hair&make-up: Ryuji Nakashima (HAPP'S) text: Mitsuru Shibata
composition: Keiko Oshima special thanks: BROTURES Harajuku

TOTE BAG

ダンヒルの “1893ハーネス コレクション” ウェストトート

〈ダンヒル〉は、1893年に家業の馬具製造業を引き継いだアルフレッド・ダンヒルが創業した。伝統的な馬具製造で培った技術を生かすとともに、当時最先端の自動車関連製品を展開。創業以来メンズアイテムに特化し、モダンティを追求する。新たな“1893ハーネス コレクション”は特製のカーブした金具とダブルブリッジバックルを備えた。トートは取り外し可能なフォリオで仕切れ、収納量に応じてフルサイズでも折り曲げて使用できる。



バッグW40×H30×D15cm。36万8500円、コート31万9000円、ニット13万4200円、パンツ10万100円(以上ダンヒル)、サングラス5万3900円(ダンヒル/ケリング アイウェア ジャパン カスタマーサービス)



GELATO PIQUE

HOMME



In Your CLOSET*

シーンを選ばず楽しめる、大人のローファー。

この春はとにかくローファーに注目したい。軽やかな足元のお洒落を演出するだけでなく、ビジネスにも違和感なく馴染む。ブランドの逸品はそれにふさわしく、リラックスしたスタイルにも洗練された気品と風格が漂う。

LOAFER



ベルルッティの
“ロレンツォ”



クリスチャン ルブタン
“ペニー ノー バック”



トッズの“T タイムレス
シティ ゴンミーニ”



ドライビングシューズを象徴するペブルにダイヤモンドパターンを合わせ、履き心地も快適



ジョンロブの“BATH”

D
シーズンやシーンを問わずに履けるブランドのアイコンモデル“ゴンミーニ”。そのスタイリッシュな魅力そのままに、新モデルが登場した。特徴であるペブルをエンボス加工で施したラバーソールにはダイヤモンドパターンを加え、グリップにも優れる。Tタイムレスのモチーフも、足元で存在感をアピールする。

ローファー 9万7900円(トッズ/トッズ・ジャパン)

C
上質なカンガルーレザーは薄くてしなやかで、足を包み込むよう。アッパーとソールを靴の内側で縫い合わせるブレイク製法により、軽く履き心地も優れる。シャープなシルエットとともにアイコンの“スクリット”は、ブランドのオリジナリティを強く印象づけ、カジュアルをラグジュアリーに格上げする。

ローファー 20万6800円、パンツ 11万2200円、バッグ 45万9800円(以上ベルルッティ/ベルルッティ・インフォメーション・デスク)

B
伝統的なグッドイヤー製法でありながら、柔らかなスウェードアッパーと薄く反りのよいソールを組み合わせ、軽快感あるモダンな履き心地が味わえる。サドルとエプロンに施されたハンドステッチをはじめ、カジュアルテイストのローファーながら気品が漂うのは、さすがに〈ジョンロブ〉ならではの。

ローファー 25万800円(ジョンロブ/ジョンロブ・ジャパン)、その他はスタイリスト私物

A
ダークブラウンがシックなスウェードレザーの1足は、踵にアリゲーター風のエンボス加工を施し、コンビネーションデザインで個性を主張する。実は、踵は折り畳むことができるステップダウンデザイン。サンダルとしても活用できる。グログランリボンのパイピングが洗練されたシェイプをさらに際立たせる。

ローファー 13万7500円(クリスチャン ルブタン/クリスチャン ルブタン・ジャパン)

In Your CLOSET*

暮らしの中で身近な自然と向き合う喜び。

花ほころぶ季節、最も身近な自然に触れ合うガーデニングをはじめてみてはいかがだろうか。土をいじり、草花を慈しむ。日常での新たな発見へと誘う逸品は、ささやかであっても豊かなひとときをもたらしてくれる。

GARDENING TOOL

アルマーニ / カーザの
“ROVO ガーデニングキット”

シックなニュートラルトーンのチェックは、表地にポリエステル糸としては世界最高位の難燃性能を持つ繊維トリベリアを採用。ハンドルやトリムにはカーフレザーをあしらう。6つの外ポケットには、スコップやハサミなど、木製グリップの付いたガーデニングツールをそれぞれ収納する。また先端の尖ったツールにはレザーの保護ケースが付き、安全性も配慮。使うほどに愛着が湧く仕様は、ガーデニングの楽しみをさらに広げてくれる。

ROVO ガーデニングキット。W41×H46×D13cm。17万5120円(アルマーニ/カーザ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

In Your CLOSET*

ラグジュアリーな爽快感をまとうサイクリングへ。

うらかな陽気に誘われて、サイクリングを楽しみたいくなる。お気に入りのウエアやグッズがあれば気分もよりいっそう高まる。いずれも洗練されたデザインと機能を併せ持ち、大人のリラックスタイムを彩るにもふさわしい。

MOORER / ムーレー

MONTBLANC / モンブラン

モンブラン

McLaren x Bowers & Wilkins /

マクラーレン・パウワース&ウィルキンズ

THOM BROWNE / トム ブラウン

トム ブラウン



HEADPHONE

マクラーレン×
パウワース&ウィルキンズの
“Px8 McLaren Edition”



SNEAKERS

トム ブラウンの
“ネイビー ファインキッズスウェード
テックランナー”



PARKA

ムーレーの
マウンテンパーカ“ELTON”



BACKPACK

モンブランの
“エクストリーム 3.0
バックパック”

D

シンプルなランニングタイプのデザインに、メッシュのアップパーとファインキッズスウェードを用い、軽量かつ通気性に優れる。サークルパターンのラバーソールはグリップ力も高い。踵にはブランドを象徴するシグネチャーグログランループタブをあしらひ、ペダリングの足元もスタイリッシュに映える。

スニーカー8万2500円(トム ブラウン/トム ブラウン 青山)、パンツはAと同じ

C

英国のプレミアムオーディオブランド〈パウワース&ウィルキンズ〉と初コラボしたワイヤレス・ヘッドフォン。2015年から“アルトゥーラ”などに採用され、高品質のサウンドは折り紙つき。アクセントカラーのパバイヤオレンジは、創業者ブルース・マクラーレンの初期のレーシングカーに着想を得る。

ヘッドフォン16万5000円(マクラーレン×パウワース&ウィルキンズ/マクラーレン・オートモティブ)、パーカ、TシャツはAと同じ

B

カーボンファイバー柄のプリントをあざやかなブルーで飾る。ポケットには、クライミングに着想を得たM LOCK 4810のバックルを備え、シンプルなデザインに個性を主張。さらにCO₂を排出しないめし加工のレザーと、リサイクルファイバーのライニングを採用。自然との一体感もより感じられるだろう。

バッグ22万9900円(モンブラン/モンブラン お客様サポート)、パーカ、パンツはAと同じ、ヘッドフォンはCと同じ

A

ビビッドカラーのオレンジは、ライディング時の安全性ばかりでなく、スポーティな走り心をかき立ててくれる。〈ムーレー〉の1着は、軽さと防風性に加え、風合いのあるハリ感とシャンブレイのような光沢感がラグジュアリーを添える。ドローストリングやフラップポケットを備えたアウトドアユース仕様も魅力。

パーカ24万5300円、Tシャツ3万3000円、パンツ8万2500円(以上ムーレー/コロネット)、バッグはBと同じ、ヘッドフォンはCと同じ、その他はスタイリスト私物

GIORGIO ARMANI

軽量・爽快だけで終わらない 8つボタンの品格ジャケット。

清々しさの演出に向くストライプジャケットも、ダブルブレストなら貫禄と清潔感の両方を印象づけられる。しかもこれは、カシミア混コットンを贅沢に使った1着。優雅なドレープを描き出し、一段上の着心地も味わえてしまう。前合わせは、昨今多い6、もしくは4ボタンではなく、あえてクラシック色の強い8ボタンを採用。これをひとつ掛けて着るとウエストの紋りが強調。美しく洗練されたシルエットが、品格アップにひと役買ってくれる。

Vゾーンが広すぎず、着丈も短めなコンパクトシルエットが、ストライプの清涼感を引き立てる。両袖もすっきりとしたフィッティングで、Tシャツの上に羽織る“ビズカジ”スタイルで違いを印象づけることも。ジャケット51万7000円、Tシャツ4万5100円、パンツ20万1300円、バッグ35万2000円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

やっぱり“上司の貫禄”は大事だから、
**快適ジャケットも
ダブルを選ぶ。**

ビジネス服の主角を担うジャケットも、快適さに重きを置いて選ぶ時代。

ただ、そんな時代だからこそ、保つべき貫禄をしっかり印象づけられる力量が問われているのかもしれない。そこで頼りになるのが、テイラードにおいて一流を体現するブランドのダブルブレスト。ダブル特有の風格を、羽織るような、極めて軽やかな仕立ての中で享受できるだろう。

写真＝野口貴司 スタイルリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝中嶋竜司 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara (CaN)
hair&make-up : Ryuji Nakashima (HAPP'S) text : Takumi Endo composition : Keiko Oshima



A 深すぎない前合わせで、軽快さを呼び込む。

上質なりネン特有の柔らかな発色が目を引く1着は、前合わせを浅く仕立てた“ワンアンドハーフブレスト”が特徴的。ボタンを閉じた際はもちろん、外して着た際もすっきりとしたシルエットで着こなせる。ほどよく強調した肩線と、美しく沿わせたチェストまわりのラインが、着用した際に男性らしい体格を描き出す。

職人が手作業で仕上げたヴィンテージ調メタルボタンは、フロントに加え、ボタンホールを施した袖口のアクセントとしての役割も担っている。ジャケット43万7800円、シャツ5万9400円、ネクタイ3万3000円、ポケットチーフ2万9700円、パンツ7万9200円、バッグ23万1000円(以上ブルネロ クチネリ/ブルネロ クチネリ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

B 肩の力は抜いても気は抜かない楽ジャケ姿に。

通気性と伸縮性に優れる今どきのジャケットも、〈ポロラルフローレン〉なら品のよさが段違い。前身の上半分と襟、肩まわりに毛芯を使う“ハーフキャンバス”仕立てのダブルブレストのシルエットは、楽ちんすぎる着心地とは裏腹のスタイリッシュさがある。ウール混のストレッチ素材は、シワになりにくいのも嬉しい。

伸縮性を持たせたポリエステルベースの生地は、ウールがブレンドされているため、カジュアルな印象に傾きすぎず、品よく着こなせる。セットアップとして着こなせる共布のトラウザーズは、ウエストにドロースtringスが付いたイーザーパンツ仕様。ジャケット11万円、パンツ5万5000円、ニット参考商品(以上ポロラルフローレン/ラルフローレン)、その他はスタイリスト私物

C デニムのような軽快さを確かな仕立てで。

ネイビージャケットとしては出色の爽快感を放つこの1着。経糸に極細ウール素材のウィッシュとカシミヤ、緯糸にコットンを用いた生地に洗いをかけ、デニムのような風合いに。一方、仕立て自体はサルトリアル風の伝統的な技法に忠実なフルライニング仕様。着心地は爽やかながらその装いからは精悍さが際立つ。

“ウィッシュ・コットン・カシミヤ”の味わい深い紺に対し、色味が近いニットタイとインディゴ色のシャツを合わせたスタイル。紺の多彩な表情を引き出すことで、この色特有の清涼感をより強く印象づけられる。パンツは、紺が抜群に映える白に。ジャケット55万3000円、シャツ8万2500円、パンツ8万9100円(以上ロロ・ピアーナ/ロロ・ピアーナ ジャパン)、その他はスタイリスト私物





A ニットとテイラードジャケットのいいとこ取り。

ニットジャケットの優しい着心地を、品格を放つピークドラベルのダブルブレストで享受できる1着。ニットは型崩れしやすい点が短所だが、これは伸縮性のある裏地で補強しているため、カーディガンのような着用感と美しいシルエットの両立が叶えられる。コットンリネンを生かした爽やかな編み柄も魅力。

ニットの欠点とされる着崩れを独自製法で抑えた、“ライクニット”シリーズの新作。美しく返るラベルやほどよくシェイプされたウエストから仕立てのよさが伝わる一方、伸縮性や柔らかさは保たれている。ジャケット16万5000円、ニット4万8400円(以上ラルディーニ/トヨダトレーディング プレスルーム)、パンツ3万1900円(ブリリア 1949 / トヨダトレーディング プレスルーム)

B アンコンジャケットとしては白眉のエlegantさ。

春らしい配色が目を引きこのチェックジャケットは、ラベルにだけ芯材を使い、ダブルブレストならではのグラマラスなVゾーンを演出。カラダのラインに美しく沿わせた立体的なシルエットはカッティングとアイロンワークのみで生み出し、アンコン特有の軽やかな着心地をあますところなく楽しめる1着に。

シルクとリネンを混紡したウールの採用で、洗練されたシルエットを描きながらカラダを優しく包み込むような着心地を担保。ダークトーンのシャツでVゾーンを引き締めてあげると、ブルーと白を掛け合わせたチェックを、清々しく引き立てられる。ジャケット18万7000円(ベルヴェスト/伊勢丹新宿店)、パンツ3万7400円(ラトール/コロネット)、その他はスタイリスト私物

C 洒落者が認める名作を夏素材のダブルで。

〈タリアトール〉の定番アンコンジャケット“モンテカルロ”を、ダブルブレストに仕上げた新作。やや高めの位置から強めにシェイプさせたウエストによって胸まわりのたくましが強調され、凛々しいシルエットで着こなせる。その一方で、シルクリネンを用いたツイーディな生地は、清涼感と上品なドレープが印象的。

〈タリアトール〉のジャケットは、肩線を意図的に後ろ身頃側にずらした仕立てが特徴的。これにより日本人の体型に多い前肩が美しく見えるようにフィットし、腕の可動域も確保されている。ジャケット14万800円(タリアトール/トレメッツォ)、ニット4万2900円(ドルモア/バインド ピーアール)、パンツ4万700円(ピーティートリノ/PT JAPAN)、その他はスタイリスト私物





BRIONI

**リラックスして着ても
格の違いは一目瞭然。**

〈ブリオーニ〉も、芯材を極力使わず洗練されたシルエットを描き出せるテイラーの名手。見た目からもソフトさが伝わるこの1着でも、その真骨頂が味わえる。リラックスフィットの定番の“ブルーム”というモデルをベースに肩幅をやや広めに設計し、ウエストを細めにシェイプ。長すぎない着丈も相まって、男性らしいシルエットが際立ち、軽快さも印象づけられる。共布のトラウザーズと着用すれば、仕立てのよさから伝わる貴禄が際立つ。

ニットボロでカジュアルさを加味した装いにもよく映え、品のよさもしっかり保てる。インナーと靴のトーンを合わせれば、ジャケットのライトブラウンが品よく引き立つ。ジャケット〈スーツ価格〉81万4000円、ニット12万4300円、ポケットチーフ参考商品、シューズ参考商品(以上ブリオーニ/ブリオーニ クライアントサービス)

GREGGO

[グレゴ]

内羽根式のストレートチップという最もフォーマルな印象を抱かせるシティシューズ。それでいて、薄いアウトソールとシャープなトゥが際立つシルエットにはブランドらしさが宿る。パティエナ加工を施したカーフレザーを使ったアッパーには、適度な光沢と味わいがあり、アイコニックなレッドソールと併せて存在感を発揮。男らしいバイビングもアクセントに。13万900円(クリスチャン ルブタン/クリスチャン ルブタン ジャパン)



Christian Louboutin

流麗フォルムで名を馳せる〈クリスチャン ルブタン〉。

華のあるしっかり靴なら
アカ抜け度もケタ違い。

「常にスタイリッシュでありたい」と願うなら、服はもちろん靴の選択もかなり重要。芸術的な流麗フォルムが目を引き〈クリスチャン ルブタン〉の定番シューズは、スタイルを格上げするだけではなく、お手軽に華やかさもプラスしてくれる。素足にさらりと履くだけで、シンプルなジャケットスタイルもアカ抜け度急上昇。その威力は、圧倒的だ。

写真＝野口真司、スタイリング＝中川原 寛、ヘア&メイク＝中嶋竜司、文＝長谷川茂雄、構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi, styling: Kan Nakagawara (CaNN), hair&makeup: Ryo Nakashima (HAPP'S), text: Shigeo Hasegawa, composition: Keiko Oshima

ゆったりとしたセットアップスーツも、足元が「グレゴ」ならスタイリッシュさが際立つ。ジャケット11万8800円、ボロシャツ3万9600円、パンツ6万3800円(以上オーバーコート/大丸製作所3)、その他はスタイリスト私物

履

くだけで、男の格を上げてくれる。そんな名作シューズは数あれど、同時に目を引く華やかさが欲しいなら、〈クリスチャン ルブタン〉の靴を選ぶといい。そもそもウィメンズからスタートしたブランドだけに、パンプスに象徴されるような曲線美は得意中の得意。それはシンプルでシティブューズの筆頭“グレッゴ”や、スリッポンの代名詞“ダンデリオン”にも受け継がれていて、お馴染みのレッドソールと相まって、履くだけで色気をまとえるだろう。とはいえこれらの靴は、パーティやかしこまったシーンだけで履くものではない。むしろ、ちょっと脱力した休日の午後や、リラックス時間を楽しむバカンス先で、足元のエレガントなスパイスとして取り入れてこそ、その本領が発揮される。カットソーやニットの上にゆるっとジャケットを羽織ったなら、足元は〈クリスチャン ルブタン〉でさりげに格上げを。それだけで、こなれたムードとアカ抜け度合いはぐんと跳ね上がる。

〈クリスチャン ルブタン〉とは？

デザイナー、クリスチャン・ルブタン氏が、1992年パリで設立したシューメゾン。創業当時はウィメンズのみの展開で、他に類を見ない美しいプロポーションと強度のあるパンプスは、瞬く間に話題となった。世界の洒落者やセレブリティの愛用者は多数。赤く塗られた靴底（レッドソール）が、アイコンとして知られる。2008年にメンズコレクションを正式に発表。いまやレザーグッズやフレグランスなども展開。



ジャケット6万2700円、パンツ3万5200円（以上コロニー クローゼンク/バインド ビーアール）、ニット2万8600円（ヴィルム/コロネット）、その他はスタイリスト私物

DANDELION

【ダンデリオン】

グログランリボンポイントを、無駄な装飾を省いたスリッポンシューズの代表格。ほっそりと長く、美しい曲線を描くパンプは、カーフレザーの光沢と相まって足元に品格をもたらす。右ページの“グレッゴ”同様、素材や色をセレクト可能なスペシャルオーダー対応モデルのひとつで、オン・オフ両方の様々なシーンに合ったカスタムにトライしても楽しい。11万9900円（クリスチャン ルブタン/クリスチャン ルブタン ジャパン）

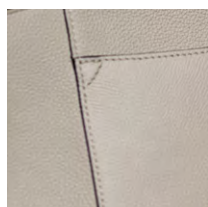


TOTE BAG

[トートバッグ]

13インチのPCやA4書類が美しく収納できるトートは、デイリーユースに最適。ビッグメゾンも信頼を置く老舗タンナーが手掛けたシュリンクレザーとノブレッサレザーで切り替えたボディは、上品でいてシミや汚れがつきにくい。開け口にはマグネットを装備。

シュリンクとノブレッサの2種類のレザーを贅沢に使用。“マヌエル トートバッグ シュリンクレザー” グレージュ H32×W34～48×D15.5cm。22万円、“Apple Watch レザーバンド” チャコールグレー 1万7600円(以上ボナベンチュラ)



COLOR VARIATION



BLACK

ジャケット6万6000円、
シャツ4万700円(以上ド
ッピア アー／コロネッ
ト)、その他はスタイリス
ト私物

BONAVENTURA

上質素材で誠実に作られた〈ボナベンチュラ〉。
シンプルモダンなアイテムには
長く愛せる理由がある。

トートバッグにウォレット、スマホケース……、普段使いに欠かせない小物は数多くあるが、そのすべてがシンプルで上質なら日々がより楽しくなる。〈ボナベンチュラ〉は、まさにそんなブランド。最上級のメゾンも採用しているペリンガー社ほか、上質レザーを使用したアイテムは、肌馴染みも抜群。飽きのこないモダンなデザインは使うほどに愛着が増す。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝中嶋竜司 文＝長谷川茂雄 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara (CaVN)
hair&make-up: Ryuji Nakashima (HAPP'S) text: Shigeo Hasegawa composition: Keiko Oshima

上質だけでない高い実用性も魅力。

C A
D B

前面上にスマホ等のガジェット類がすっきり収まり、かつ取り出しやすい底浅のポケットが備わる。



D MOBILE CASE

[モバイルケース]

アイコンックな手帳型のスマホケースは、上品で落ち着いたカラーバリエーションが揃っているので、ギフトにもぴったり。さらにカードや紙幣、名刺などが収納できる内ポケットも内蔵。こちらも復元力のあるシュリンクレザー仕様。

こちらもナノガラスコーティング加工で、水に強くシミや汚れがつきにくい。"ダイアリーケース シュリンクレザー" 右:ネイビー 1万6500円〜、左:インディゴ×エトープ1万6500円〜 (以上ボナベンチュラ)

C SHOULDER BAG

[ショルダーバッグ]

旅先のサブバッグや、ワンマイルのお出かけのお供としても重宝するミニバッグ。マチを極力抑えつつも、iPhone14 Pro Maxやカードが複数収納できる効率的な設計が魅力。外側はシュリンクレザー、内装はスムーズレザーを採用。

マチがほとんどないため、軽くてスリム。持ったときのフィット感が心地よいバッグ。"ライリー ショルダーバッグ" キャメルH19.8×W13.5×D1.4cm。6万6000円(ボナベンチュラ)

B BACKPACK

[バックパック]

仕事道具やPCなどが無駄なく収納できる角形バックパック。サイド深くまでジップが配されているため、ものの出し入れもスムーズ。背面のキャリーベルトを、スーツケースの持ち手に差し込んでジョイントできる便利な設計も嬉しい。

独自のナノガラスコーティングを施し、水を弾きシミや汚れを防ぐ。"ダビデ バックパック" チャコールグレー(近日発売予定)"20万9000円、"ダイアリーケース シュリンクレザー" ネイビー 1万6500円〜(以上ボナベンチュラ)

A MINI WALLET

[ミニウォレット]

小型ウォレットは種類が豊富。なかでもコインケースとカードスリットを融合したスリムタイプ(右)、札ばさみとコインケースを装備した二つ折りタイプ(左)は代表モデル。柔らかくてキメ細かいシュリンクレザーが持ち味。

右:"ミニジップ ウォレット シュリンクレザー" チャコールグレー×トゥルーグレー 2万8050円、左:"バイフォールド ビルクリップ コインケース付き シュリンクレザー" オリーブ3万8500円(以上ボナベンチュラ)



SAKURA COCKTAIL*

01/ イノベーティブな日本料理と一緒に。 ウェスティンホテル横浜

昨 年6月に開業した〈ウェスティンホテル横浜〉では、館内の5つの料飲施設で桜をテーマにしたフェアを開催。日本料理の〈喫水線〉で提供されるカクテルは3種類。京都のジン“季の美”を使い、さっぱりとした味わいの“桜ソニック”。地元の瀬戸酒造店のお酒を桜のリキュールに合わせた“桜ドッグ”。ほのかに桜が香るノンアルコールの“桜レモンスカッシュ”。どれも気分は、春爛漫。ほか

にも“桜弁当”や6品からなる“季節のコース 桜ディナー”で、食からも春を満喫できる。また、最上階の〈コード・バー〉でも2種の春カクテルを用意。シグネチャーカクテルにペリエ・ジュエを合わせた“ヘブンリーベッド・桜ロイヤル”は大人な一杯です。

DATA

⑨神奈川県横浜市西区みなとみらい4-2-8
☎045-577-0888
www.westinyokohama.co.jp



右から、桜ドッグ2400円、桜ソニック1800円、桜レモンスカッシュ1200円(税サ込み)

04/ ソメイヨシノが舞い散るような爽やかさ。 フォーシーズンズホテル東京大手町

パ リと東京が融合したような落ち着いたある空間〈ヴェルテュ〉。フランスのヴィンテージスピリッツや希少なコニャックを使い、世界も認める日本の高いテクニックで仕上げたカクテルが味わえる。春のおすすめは“ソメイヨシノ”。米焼酎“米蔵”をベースに、桜のリキュールや日本酒、柑橘で仕上げた一杯。散り際が美しい桜の名にふさわしく、後味は爽やか。



DATA

⑨東京都千代田区大手町1-2-1 フォーシーズンズホテル東京大手町 39階
☎03-6810-0655
https://www.fourseasons.com/jp/otemachi/dining/restaurants/virtu/

米焼酎をベースにしたソメイヨシノ3200円(税サ込み)

02/ 和カクテルで堪能する日本の春。 ハイアット セントリック 銀座 東京

3 階の〈ナミキ667〉では日本の春を感じる4種類のカクテルを用意。“六ジン”をベースに、桃やレモンをアクセントにした“ジャパンハート”。抹茶のリキュールと日本酒を使用し、マスカットのリキュールでフルーティに仕上げた“キサラギ”など、和情緒たっぷりに銀座の夜を楽しむことができる。ほかにも、“東京の桜”をテーマにした、アフタヌーンティーを開催中。



DATA

⑨東京都中央区銀座6-6-7
☎03-6837-1300
https://namiki667.com

右から、桜香るジャパンハート2200円、サクラスパークリング2420円、キサラギ2200円、ロイヤルミルクティー 1980円(税サ込み)

05/ 古きよき京都でモダンかつスタイリッシュな桜を。 ザ・リッツ・カールトン京都

2 種類の桜カクテルが登場。“サウザンドゴールド 千金”はテキーラをベースにライチやりんごを桜のテイストに合わせ、生姜やピンクペッパーをピリッと効かせたショートカクテル。“サクラ アクロス”はカカオやキャラメル味のナッティーさとチャイティーのスパイスが桜のテイストを引き立てるロングカクテル。どちらも余韻のある奥深い味わいが特徴で、個性的。



DATA

⑨京都府京都市中京区鴨川二条大橋畔
☎075-746-5555
https://www.ritzcarlton.com/jp/hotels/japan/kyoto

右から、サクラ アクロス、サウザンドゴールド 千金各3416円(税サ込み)

03/ 花札“桜に幕”をモチーフにした、いちごカクテル。 セントレジスホテル 大阪

ホ テル12階、華やかな桃山時代の世界が広がる〈セントレジスバー〉。“花札”をテーマに、月ごとに旬を迎えるいちごの品種を贅沢に使ったストロベリーカクテルが話題に。3月の月札は“桜に幕”。江戸時代、満開の桜の下に幕を張り、大衆は花見を楽しんだそう。当時の人々が食べていたお菓子や酒、見上げた桜をカクテルで表現し、ひとときを別世界へ連れて行ってくれる。



DATA

⑨大阪府大阪市中央区本町3-6-12
☎06-6258-3333
www.stregisosaka.co.jp/

月替わりのストロベリーカクテル3000円〜(税サ込み)

文 字盤カラーは、黒、白、ネイビーが“なにかと安心”。人気が高いのも頷ける。とはいえ、今

は個性を大事にする時代。ある程度の品格を備えていれば、ビジネスシーンでも個性ある文字盤を楽しむのは大いにアリだろう。そう考えると、〈ベル&ロス〉BR 05 スケルトン ゴールデンは、品格と個性のバランスがかなりいい。

四角いケースに丸い文字盤を組み合わせたアイコンックなデザインがもともと個性的なBR 05だが、“アーバン”を謳うとおり、一体化されたケースとブレスレットがとってもエレガント。手元でしっかりと品格を語ってくれる。しかし、文字盤はアバンギャルドだ。ゴールデンと名づけられているものの、琥珀色にも似た光を放つのは、この文字盤が透けているため。中の自動巻きムーブメントがうっすらと見えるから、実際にはかなり表情豊かに感じられることだろう。こんな時計なら個性出しはもちろん、まわりから一目置かれるのは間違いない。



BR 05 Skeleton Golden

〔 BR 05 スケルトン ゴールデン 〕



前作のグリーンに続き、2月に発売された“BR 05 スケルトン”の最新作。ケース裏面もシースルー仕様で、美しい機械式ムーブメントが鑑賞できる。アブライドインデックスと時分針にはスーパーミノバが塗布され、暗がりではグリーンに発光。世界限定500本。ケース径40mm、自動巻き、SSケース & プレス、100m防水。96万8000円(ベル&ロス/ベル&ロス 銀座ブティック)

Bell & Ross

今度の〈ベル&ロス〉はシックな“ゴールデン”。

ユニークなカラー文字盤で個性を語るのも面白い。

ビジネスウエアのカジュアル化に伴い、時計選びの自由度も拡大。自分のセンスやキャラクターを表現できる時計があれば、きっとビジネスでのパフォーマンスアップにも繋がることだろう。そこでは是非見てほしいのが〈ベル&ロス〉BR 05 スケルトンの新作。都会的な洗練デザインながらも文字盤がゴールデンカラー。しかも透けているのだから面白い。

写真＝野口貴司、正重智生 スタイルリング＝中川原 寛 ヘア & メイク＝中嶋竜司 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi, Tomoo Syoju(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaNN)
hair&make-up: Ryuji Nakashima(HAPP'S) composition: Keiko Oshima

ジャケット35万2000円(ベルヴェスト/伊勢丹新宿店)、ボロシャツ2万9700円(フィリップ デ ローレンティス/トヨダトレーディング プレスルーム)、パンツ3万1900円(マッキントッシュ/マッキントッシュ ギンザシックス店)、その他はスタイリスト私物

ELEVATE YOURSELF*

今、この一瞬にフォーカスする生き方が自分を高める。

ビジネスの世界で結果を出している人は、恐らく日常のどこかで自分を高めるなにかをしているはず。今回は、「日本酒の魅力をお酒を飲まない人にも知ってもらいたい」という思いからスキンケアブランド事業をはじめた中村優志さんに、その原点を語ってもらった。

写真＝正重智生、アフロ 文＝遠藤 匠

photo: Tomoo Syoju(BOIL), AFLO text: Takumi Endo

「“ピルスナーウルケル”はチェコではポピュラーなビールですが、当時日本ではどこで飲めるのかもわからず。あまりにも美味しかったので、帰国する際、何本もまとめ買いして帰ってきました(笑)」



「日本酒の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」。そんな思いを、日本酒でスキンケア商品を作るという斬新な発想で叶えようとブランドを立ち上げた中村優志さん。日本酒の持つ底力を多くの人に届ける一方、日本酒業界の発展に寄与したいという一心で昨年起業。第一弾の製品は、日本酒と同様の成分を使ったスキンケア商品“蔵寿”。コンセプトは、“日本酒が飲めない人や触れる機会がなかった人にも、日本酒との新たな出会いを作ること”。しかし、なぜこんなにも日本酒にこだわったのか？ そのきっかけは、新卒で入社した銀行勤務時代に遡る。「配属で長野県に赴任した際、取引先の酒蔵の仕事を

見たり、プライベートで地酒を楽しむようになりました。そのとき日本酒は様々なポテンシャルを秘めていると感じたんです」

そんな中村さんには、お酒に興味を持つようになった原体験があるという。「就職が決まって社会人になる前に海外に行こうと、チェコのプラハに行きました。欧州旅行といえばイタリアやフランスに行く人が多い中、まわりとは違うところに行こうという軽い気持ちで旅先も決めました。そのときに現地で飲んだ“ピルスナーウルケル”というビールが衝撃的に美味しかったんです。それまでお酒といえば酔えればいいという感覚でしたが、このビールではじめて味を楽しむことを知りました。今ならもっと美味しいと思えるビールもあるかもしれませんが、僕にとっては思い出込みでお酒の美味しさを知ったターニングポイント。だから、お酒の仕事に携わるようになった自分の原点となる存在です」

“ピルスナーウルケル”でお酒の美味しさを知り、その後出会った日本酒のポテンシャルの高さを知った中村さん。安定の会社員を辞め、お酒に関わるビジネスを立ち

上げようとした、そのきっかけも語ってくれた。「28歳で転職した際に精巣ガンが発覚しました。闘病生活の中で、『人間はいつ死ぬかわからない。やりたいことがあるなら今やらなければ』という強い思いに駆られたんです。学生時代から起業には興味がありましたし。だから、いつかやろうではなく、今やることに決めました。なかでも、頭の中でずっとアイデアを抱えていた日本酒をビジネスにしようとして徹底的に調べ、お酒が飲めない人にも使ってもらえる日本酒の化粧品ブランドを立ち上げました。起業したのは、“今この一瞬にフォーカスする生き方”をしたかったから。病気がきっかけでこの考え方が生まれ、起業した現在も自分の軸になっています。仕事自体が自分を高めてくれています」

今の夢は「かつて熱狂したサッカー選手で、現在は日本酒業界に携わる中田英寿さんと一緒に仕事をする事」。毎日を全力で生きる中村さんの日本酒との縁がどこまで広がるのか、楽しみで仕方がない。



A: サッカーでもビジネスにおいても憧れの存在、中田英寿さん。いつか仕事をしたい B: “蔵寿”のスキンケアローションと乳液。既存の日本酒由来スキンケア用品は「匂いが気になる」という声をよく聞くため、日本酒特有の香りを抑えた。発酵工程で生まれるアミノ酸による高い保湿効果で、お肌にうるおいを与える



株式会社リシュブルー
中村優志さん

1992年、東京都生まれ。青山学院大学国際政治経済学部卒業後、三井住友銀行に入行。長野支店と本店勤務を経てアクサ生命保険に転職。2021年のガン発覚を機に人生を見直し、2022年6月にリシュブルーを起業。

腕

時計は、ビジネスの装いで楽しめる数少ない装飾品。選び方次第で、身につける人の個性や時代の気分をさりげなく印象づける役割を担ってくれる。では、これをスーツの装いに当てはめてみるとどうだろう。ビジネスの装いがカジュアルになったとはいえ、スーツを着る必要があるときはドレススタイルの様式美を重んじ、品よく着こなすのが定石。となると、合わせる腕時計は三針のドレスウォッチが鉄板だが、教書どおりの選びでは時代を表現す

るのは難しい。そこでまってみてほしいのが、〈ハミルトン〉の“ジャズマスター パフォーマー オート 38mm”だ。ブランドを代表するドレスウォッチの新顔となる本作は、パンチングレザー製ストラップからモータースポーツの世界観を感じられ、5分刻みの数字を刻んだカウントダウンベゼルがアクティブなアクセントとなる。品のよさを保ちながらスポーティな印象を与えられるこの腕時計を、スーツに合わせるとどうだろう。モダンな印象に一変することは、一目瞭然だ。



上：美しいブルーの輝きを映し出す、サンレイ仕上げのダイヤルも見どころ
下：パンチング加工を施したレーシングスタイルのレザーストラップを採用し、スポーティかつダイナミックさを表現

JAZZMASTER PERFORMER AUTO 38MM

[ジャズマスター パフォーマー オート 38mm]

パンチング加工のレザーストラップが放つスポーティさゆえ、スーツに限らず、カジュアルにもよく映える。時分針と秒針にはスーパーミノーバ加工のニッケルを採用し、暗所での視認性を高めた。ニヴァクロン製ヒゲゼンマイ採用のH-10ムーブメントを搭載し、標準持続時間80時間を実現。ケース径38mm、自動巻き、SSケース、レザーストラップ、10気圧防水。14万9600円（ハミルトン/スウォッチ グループ ジャパン）

スーツ15万7300円（タリアトーレ/トレメッツォ）、シャツ3万9600円、ネクタイ1万2100円（ルイジ ボレリ/バインド ピーアール）、その他はスタイリスト私物

HAMILTON

今どき感にあふれる〈ハミルトン〉の新作。

装いをモダンに魅せる時計は
品とスポーティさのバランスがいい。

スーツの装いは、ルールがあってこそ映えるスタイル。一方、その中で時代のムードを表現することもまた、楽しみのひとつになる。その役割を担ってくれるタイムピースが、〈ハミルトン〉の“ジャズマスター”の新作としてお目見えした。品よくまといえ、スポーティさも印象づけられる。白眉のバランスを楽しみたい。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝中嶋竜司 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara(CaNN)
hair&make-up : Ryuji Nakashima(HAPP'S) text : Takumi Endo composition : Keiko Oshima

ジャケット参考商品、シャツ7万3700円
(以上カネーリ/コロネット)、腕時計28
万6000円(アテッサ/シチズンお客様時
計相談室)、その他はスタイリスト私物

CITIZEN

先進テクノロジーが詰まった〈シチズン〉アテッサ。

毎日躍動する大人には
精悍なチタニウムウォッチがよく映える。

時計業界をリードする先進テクノロジーで、時代のニーズに应运てきた〈シチズン〉の
“アテッサ”。ステンレスの5倍以上の硬度を誇るスーパーチタニウム製ケースを採用し、
わずかな光で発電する“光発電エコ・ドライブ”に代表される先進スペックを満載した
究極の実用時計が揃う。オン・オフで躍動する大人の頼れる相棒になってくれるに違いない。

写真＝野口貴司 スタイルング＝中川麻寛 ヘア＆メイク＝中嶋竜司
文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子 撮影協力＝ピーター・ルーガー・ステーキハウス東京
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawa (CaNN)
hair&make-up: Ryuji Nakashima (HAPP'S) text: Takami Endo composition: Keiko Oshima
special thanks: Peter Lager Steak House Tokyo

ATTESA

[アテッサ]

最先端を担うスペックを搭載する一方、多様化するライフスタイルにフィットするデザインを打ち出してきた〈シチズン〉の“アテッサ”。アクティブなデザインでオン・オフ使いやすい“ACT Line(アクトライン)”や、シチズンの名作ともいわれ長年愛されている“AT8040-57E”など、その選択肢はいずれも魅力的だ。

ATTESA ACT Line AT8185-62E

[アテッサ アクトライン AT8185-62E]

ブラックボディに映えるオレンジのアクセントカラーがアクティブな印象を与える人気モデル。2ステップの簡単な操作で海外の現地時刻に合わせられる“ダイレクトフライト機能”を搭載する。ケース径42mm、エコ・ドライブ、スーパーチャタニウムケース&プレス、10気圧防水。14万3000円(アテッサ/シチズンお客様時計相談室)

ATTESA ACT Line CC4055-65E

[アテッサ アクトライン CC4055-65E]

エコ・ドライブGPS衛星電波時計の最上位ムーブメントであるキャリバーF950を搭載した、多機能クロノグラフ。モノトーンで統一した精悍なフェイスに、インダイヤルの金属リングとバーインデックスで立体的な表情を演出した。ケース径44.6mm、エコ・ドライブ、スーパーチャタニウムケース&プレス、10気圧防水。28万6000円(アテッサ/シチズンお客様時計相談室)



上:ケースのスーパーチャタニウムはステンレスに比べ約40%軽く、心地よくフィット 下右:陽の当たる場所でも時刻を読み取れる“クラリティ・コーティング” 下左:サファイアクリスタルベゼルはミラー仕上げで高級感を付与



◎シチズンお客様時計相談室 ☎0120-78-4807 citizen.jp
※掲載商品のお問い合わせ先 / コロネット ☎03-5216-6521

右ページの
モデル着用は
コレ!

ビジネス時計の選択肢として絶対的な信頼を獲得し、常にアクティブでありたいと願う現代の大人たちからも選ばれている〈シチズン〉の“アテッサ”。選ばれる理由のひとつが、スーパーチャタニウム製のケースとブレスレットだ。シチズン独自の表面硬

化処理を用いた同素材はステンレスの5倍以上の硬度を誇り、耐傷や耐腐食性も高い。加えて、わずかな光でも発電する“光発電エコ・ドライブ”を搭載。標準電波の受信で時刻を自動修正する機能もほとんどのモデルに採用されている。アクティブなデザインの“ACT Line”は、光沢の

あるサファイアクリスタル製ベゼルを採用した“CC4055-65E”や随所のオレンジが目を引き“AT8185-62E”など、オン・オフ使いやすいモデルが揃う。さらに、軽量で快適な定番クロノグラフ“AT8040-57E”は、様々な装いにおいてもよく相棒となるだろう。

ATTESA AT8040-57E

[アテッサ AT8040-57E]

“アテッサ”における定番として、長く親しまれている1本。上位機種レベルの機能を備えつつ、手に取りやすい価格を実現した。磁気や衝撃による針ズレを防ぐ、独自技術“パーフェックスマルチ3000”も備わる。ケース径41.5mm、エコ・ドライブ、スーパーチャタニウムケース&プレス、10気圧防水。11万円(アテッサ/シチズンお客様時計相談室)

ゴルフも仕事も、優雅に効率よく!?

都会派ゴルフスタイルが変化しているようです。

最近、ゴルフの楽しみ方がずいぶんと変わってきたようだ。バブル時代のように、接待や仕事としてのゴルフではなく、自分のライフスタイルを豊かにするためのゴルフ。しかも、そのスタイルも実に洗練されてきた。デキる男はコースで1日を過ごしつつも、その後リモートワークやジムワークも悠々とこなす。もちろんファッションも然り。ワンランク上の都会派ゴルファーが目指すべきは、こんなゴルフの楽しみ方では?

写真＝野口貴司 スタyling＝Kim-Chang ヘア&メイク＝星 隆士 文＝八木悠太
構成＝大嶋慧子 撮影協力＝鎌倉カントリークラブ、レクサスインターナショナル
photo : Takashi Noguchi styling : Kim-Chang hair&make-up : Takashi Hoshi(signo) text : Yuta Yagi
composition : Keiko Oshima special thanks : Kamakura Country Club, Lexus International



🕒 AM8:00～

TO THE WAY

品格は当然、着こなしに季節感を醸してこそ大人。

事実、郊外に多いゴルフ場だが、アクセスしやすいコースを選べば、余裕をもって1日をスタートできる。着るのは当然、羽織り心地のいい上質ジャケットをメインにした着こなし。いくらドレスコードがゆるくなった現代とはいえ、出発するときは大人なら格式を重んじた品格あるスタイルで臨みたい。また季節感を上手に出すのも着こなしを魅力的にする有効な手。軽やかな春の気分を演出すべく、トップはライトな色調で構成したい。

襟と肩まわりに切りっぱなしのデザインを施したノーカラージャケット。ビュアリネンの素材感がほどよいリラックス感を生む。ジャケット50万9300円、ニット17万3800円、パンツ10万4500円、バッグ17万5000円(以上ゼニア/ゼニア カスタマーサービス)、シューズ15万4000円(ジェイエムウエストン/ジェイエムウエストン 青山店)、その他はスタイリスト私物



🕒 AM9:00~

PLAY GOLF

あざやかに色づく芝に映える
着こなしでパートナーと。

青空と自然の緑に囲まれた、爽快なひととき。パートナーとのラウンドは、プレイも装いもスマートさを心がけるのが鉄則だ。プレイはパートナーが、ミスショットをしてもさりげないフォローを忘れずに。もちろん、ラウンド中の着こなしは彼女のコーデを引き立てる、爽やかかつシンプルな装いが正解。2人のスタイルに、まわりのプレイヤーは一緒に振り向くかも？

男:1990年代のドライバーに使用されたクラシックロゴをグラフィック化したモックネックシャツは、吸水速乾性とUVプロテクト機能を備えた優秀素材。モックネックシャツ7700円、パンツ1万2100円、キャップ4400円、キャディバッグ実勢価格5万600円(以上テーラーメイドアパレル/テーラーメイドゴルフカスタマーサービス)、シューズ1万7600円(コンバース/コンバースインフォメーションセンター)。その他はスタイリスト私物。女:ノースリーブポロシャツ1万8700円、スカート2万8600円、サンバイザー8260円、ハイソックス1万1000円(以上ムーター・マリン/ムーター・ジャパン)。手に持ったアイアン各2万7500円(以上テーラーメイドゴルフ/テーラーメイドゴルフカスタマーサービス)、シューズ1万1000円(コンバース/コンバースインフォメーションセンター)。

※実勢価格は編集部調べ

🕒 PM14:00~
TELEWORK

柔らかなトーンの1着で
一気に仕事モードへ。

ラウンドを終えたあとは、近場のカフェでオンラインミーティングに参加。このように、遊んだ直後に働くというスタイルに上手に対応していくのも、現代の都会派ゴルファーならではの。当然、オンラインで繋がる相手に敬意を払い、映りにも気を遣うのが大人としてのマナー。上質なジャケットを羽織った上品なコーデは、この季節の緑とリンクするようでテレワークも気分よくゆったりと臨める。

リネン、シルク、ウールの混紡素材のジャケットは、春夏シーズンに理想的な軽やかさ。夏の暑い時期はもちろん、季節の変わり目にもぴったり。ウールを混紡しているため、シワになりにくい。ジャケット44万7700円、ニット14万8500円、中に着たTシャツ5万2800円、パンツ7万9200円、チーフ3万3000円、iPhoneケース4万9500円（以上ブルネロ クチネリ/ブルネロ クチネリ ジャパン）、腕時計予定価格434万5000円（オーデマ ピゲ/オーデマ ピゲ ジャパン）



🕒 PM16:00～
WORK OUT

ジムウェアを常に用意して
時間と健康をマネジメント。

限られた時間をより有効に使えることも、スマートな都会派ゴルファーたる要件のひとつ。ひと仕事終えた後、帰路に就く前に、もうひと汗。ラウンドで疲れたカラダに、適度に刺激を与えて回復を促すのが賢い選択だ。もちろん着るのは、軽やかで伸びがいい、ソフトで蒸れにくいなど、機能面で優秀な生地で仕立てたジムウェアを。スペースを取らない薄手のアイテムゆえに、常にバッグやクルマに備えておきたい。

Tシャツは今シーズンの「PGG」を象徴する石をモチーフとした空グレーを表面にプリントで表現。清涼感のある見た目に通気性とシャリ感のあるさらっとした肌触りが特徴。スポーツだけでなく、普段着としても快適に楽しめる。一方、ショーツは軽やかさをイメージしたロゴに落ち着いたトーンのブルーが印象的。メッシュ素材でありながら型崩れしにくい。ハーフジップTシャツ2万4200円、ショーツ3万3000円、ソックス3080円、シューズ2万6400円(以上PGG)

こ数年、張り詰めた気持ちとともに過ごしてきたからこそ、希望を掲げ幸せを願う。そんな思いを抱く〈パーリーゲイツ〉が今期テーマとして掲げたのは、花嫁が身につけると幸せを呼ぶという、イギリスの古くからの言い伝え“サムシング・フォー”。なかでも強く提案するのが、ライトネイビーを採用したアイテム群だ。

ブランドを象徴するカラー、ダークネ

イビーのトーンを上げて“明るい兆し”という意を込めた、新たな色。こちらに、“サムシング・オールド”＝伝統的なブラックウォッチを合わせ、そして平和と希望を意味するデイジーの花を“サムシング・ボロウ”に見立て、アレンジアクセントとして遊び心を表現。“サムシング・ニュー”には新たなモチーフやデザインが取り入れられ、“サムシング・ブルー”とかけたライトネイビーのトータルコーデは、すべて

のゴルファーたちの幸せへの願いを込めたコレクションだ。

ネイビーはトラディショナルに不可欠なカラーで、知性や誠実さといった印象を与える色。ゆえに、紳士のスポーツであるゴルフのスタイリングに、品格ある印象を取り入れたい大人にうってつけ。囲まれた新緑とコントラストが効いていっそう映えるライトネイビースタイルで、新たなシーズンを存分に楽しみたい。



右:特殊な加工によりいっそうの軽量感を得られるニットベストに、伝統的なブラックウォッチ柄のボロシャツを重ねて、トラッド感を。ニットベスト2万7500円、ボロシャツ2万7500円、パンツ3万800円、ハット1万5400円、ソックス3080円、シューズ2万8600円、キャディバッグ7万400円、DRヘッドカバー8800円、FWヘッドカバー8580円、UTヘッドカバー8360円、PTヘッドカバー8140円 中右:ネイビーのワントーンコーデだからこそ、素材感やデザインのよさが光る。ボロシャツ2万5300円、スカート3万800円、サンバイザー1万780円、ハイソックス4180円、バッグ2万2000円、シューズ2万8600円 中左:シャツとパンツ、どちらも織りや型押しによりチェック柄をプラス。このさりげなさが、大人の余裕に。モックネックシャツ1万7600円、チェックパンツ3万6300円、キャップ8140円、グローブ4620円、シューズ3万9600円 左:レース使いと美しいラインシルエットで、女性らしい可憐な表情のワンピース。ワンピース3万4100円、サンバイザー8140円、グローブ8140円、ソックス3080円、シューズ3万9600円、PTヘッドカバー8140円(以上パーリーゲイツ)

PEARLY GATES

〈パーリーゲイツ〉の新しい春は「幸せもゴルフも」。

春の新鮮スタイルは
清々しい“ライトネイビー”で。

木々が芽吹き芝は青々と輝きはじめる。鳥はさえずり、柔らかな風が吹く。
まるで春の訪れを祝うかのようなシチュエーションの中でのラウンドは、
目で、耳で、カラダでと、全身に幸せいっぱいな気分を味わうことができる。
そんな心地よさを、自身のスタイリングで表現するのにも一興だ。
〈パーリーゲイツ〉の新提案、ライトネイビーのコーデで叶えてほしい。

写真＝野口貴司 スタyling＝Kim-Chang ヘア＆メイク＝星 隆士

文＝八木悠太 構成＝大嶋慧子 撮影協力＝鎌倉カントリークラブ

photo: Takashi Noguchi styling: Kim-Chang hair&make-up: Takashi Hoshi(signo) text: Yuta Yagi

composition: Keiko Oshima special thanks: Kamakura Country Club





『Safari』×「HOUSETRAD」と 居心地のいい空間づくりを。

この記事を読んで、自宅、会社のリノベーション、戸建てに興味を持たれた方は、是非下記アドレスにご連絡ください。『Safari』が、インテリアデザイン会社「HOUSETRAD」と一緒に、あなたのライフスタイルにあった住空間をご提案させていただきます。物件探しなどもお気軽にご相談ください。

info_house@hinode.co.jp

HOUSETRAD

アメリカナイズされた 上質な住空間を提案。

“古くなって捨てられるようなモノは、買わない、売らない、つぐらない”が理念のリノベーション会社。個人宅以外にも、オフィス、店舗、オーダー家具までデザイン。専属の不動産アドバイザーもいるので物件紹介も可能。住空間のスペシャリスト。

④東京都目黒区中目黒1-9-3
ROJU NAKAMEGURO
☎03-6412-7406
<https://housetrad.com/>



HOUSETRAD

〈ハウストラッド〉で憧れのLAスタイルを体感。

爽やかな白を基調とした 素材感が生きる美しい部屋。

むき出しの天井に無塗装の無垢の床。シンプルでカジュアルな空間こそ、デザイン性の高さと暮らす人のセンスが、差となって表れる。ラフではあっても上質、ヌケ感がありながらラグジュアリー。LAスタイルにフルリノベしたO邸は、その絶妙なバランスが取れた1室だ。

写真＝松村隆史 文＝中城邦子

photo : Takafumi Matsumura text : Kuniko Nakajo

明

治神宮にほど近い雁行型の建物。1965年築ながら、当時すでにエレベーター、屋上にはプールを備え、フロントサービスが常駐する伝説のヴィンテージマンションだ。Oさん夫妻は、子供が生まれるタイミングで、物件との出会いがあった。近い将来建て替え計画があることは承知のうえで、「歴史ある建物で暮らしたという家族の思い出は一生残るので」と購入。過ごせる期間が限定されているからこそ、予算をかけすぎずにこだ

わりを実現した。生活感のあるものは、すべてキャビネット内に収納。天井は現しにして、セントラルヒーティングの噴き出し口もむき出しに。もともと壁や床材は部屋ごとに様々な仕上げとなっていたが、クリア塗装を施してそのまま生かした。素材感のあるものが好きな夫妻は、「床の段差も味わいとして楽しんでいる」。天井や壁は、吹き付けや左官の刷毛目が残る仕上げのまま白く塗装。表情を生かしながらも統一感のある空間で生活を楽しんでいる。

Gastronomic City

NIIGATA*



美食のフロンティアとして今、国内外から注目される新潟県。

さる3月9日に『新潟ガストロノミアワード』で県内の秀でた100の飲食店が、有識者によって選ばれた。自治体が主導するリストというのは全国で初の試み。知られざる名店揃いのこのリストの中でも、選りすぐりの2店を紹介する。

取材・文＝中村孝則 text：Takanori Nakamura

『新潟ガストロノミアワード』は、新潟県が主導するかたちで、県内の風土や歴史や、食文化を表現する飲食店を評価・顕彰するために、2022年に創設された。筆者は、その特別審査員長を務めさせていただいたが、新潟は地域ごとに多彩な食材や食文化を誇り、加えて若手の優れた料理人たちを擁していることに改めて驚かされた。是非リストをじっくりご覧いただきたいが、今回はその中でも極めて個性的でかつ美味しい象徴的な2店をご紹介したい。

〈my farm to table おにや〉は、新潟県出身の鬼嶋大之さんがオーナーシェフを務めるお店。鬼嶋さんは修業を経て地元の新潟で開業。試行錯誤の末に鶏の専門料理店として独自の調理方法を確立し、県内外の多くのファンを魅了する。鶏をメインの食材として扱うのだが、そのスタイルは極めてユニークなのだ。鬼嶋さんは自家農場を持ち、鶏だけでなく「鶏肉の宝石」と呼ばれる去勢した雄鶏、シャボン(CHAPON)も自分で育てる。生産から調理、提供まで行うことで食材の命から携わり、独自の世界観を料理で表現するのである。名物料理の鶏の刺身などはその象徴で、鶏のあらゆる部位を生で食べさせる。鶏の生食は世界中でも珍しく、新鮮なのはもちろんだが驚くほど旨い。

新潟市郊外の〈福楽(ふらく)〉は、店主の堀山 潤さんが、閑静な住宅街にある祖父の家をリノベーションして2022年3月に立ち上げた日本料理店である。ゆえに情報もほとんどないが、その独創的な日本料理はフーディたちも舌を巻くはずだ。堀山さんは、狩猟や釣りを20年以上にわたり趣味としており、食材の多くは彼自身が撃ったジビエや釣った魚、あるいは採った山菜などで構成されている。言葉が適切かはわからないが、フィールド・トゥ・テーブルの店である。新潟の豊穡なる大自然を、しかも日本料理で味わえるのは稀有な美食体験になるはずだ。

この2店だけでも、新潟を訪れる価値が十分にあると太鼓判を押したいと思う。



取材・文 中村孝則 美食評論家

1964年神奈川県山梨生まれ。ファッションからカルチャー、美食などをテーマに新聞や雑誌、テレビで活動中。主な著書に『名店レシピの巡礼修業』（世界文化社）がある。2013年より『世界ベストレストラン50』の日本評議委員長を務める。'22年春より、JR九州が運行する「なつ星in九州」の車内誌の編集長に就任。



名物の鶏のお刺身は、新鮮な鶏を部位ごとに刺身で楽しむ趣向。特に内臓系の生食は珍しい



DATA

③新潟県新潟市中央区
東堀前通8番町1377
☎18:00～22:30(22:00LO)
不定休
☎025-210-7939
<https://www.tablecheck.com/shops/oniya/reserve>(予約)

FURAKU

〔日本料理 福楽〕

自ら撃つ・釣る・採る
自然の恵みを料理。

季節ごとの食材を、自らフィールドに出かけて調達し、日本料理に仕立てるという稀有な店。野鴨や鹿といったジビエや、日本海の青物や底物の魚など、季節の新潟の野生の食材を使った料理は、旨いだけでなく滋味にあふれている。ワインや日本酒のペアリングも楽しい。

DATA

③新潟県新潟市江南区大淵1196-2
☎11:30～13:00(最終入店)、
17:00～19:00(最終入店)
※昼は前日、夜は2日前までに要予約
(休火・水曜)
☎025-282-7459
<https://furaku2022.wixsite.com/-site>

熊とすっぽんのしゃぶしゃぶは、野性味と地味と旨味の三味が渾然一体に

my farm to table oniya

〔my farm to table おにや〕

自ら育てた鶏で世界を驚かす料理を作る。

一般的な飼育期間を優に超える大切に育てた鶏を自らさばき、部位ごとに最適な調理法で提供する。特に、飼育と去勢が難しい雄鶏のシャボンは、鶏肉のポテンシャルを最高の状態まで引き出している。リニューアルされたモダンな店内の雰囲気も楽しみのひとつ。

A:シャボンの炭火焼は、ふっくらとした身質で豊穡な味わい B:鶏のユッケには、同じ自家農園の鶏の新鮮な玉子が添えられる C:オーナーシェフの鬼嶋大之さんは、新潟県の新発田出身。独自の調理方法と理念を持ち、地元からローカル・ガストロノミーの魅力を発信する D:先頃、内外装をご覧のようなモダンな雰囲気のリニューアルし、今の店名に変えたばかり



A:野鴨と鹿の前菜には新潟の地酒を合わせて B:地元出身のオーナーシェフの堀山 潤さんは、自ら日夜フィールドに出かけて食材を確保する C:地元で育てられた鯉の刺身。こちらも絶品である。締めは季節の食材の土鍋ごはんが供される



あなたを物語る、あなたの色を

アクアテラ シェード コレクションが映し出すエディ・レッドメイン。その色彩は内なる彼を解放する。俳優エディのように、このオメガ ウォッチは様々な表情を魅せ、あなた自身を奏で始める。光り輝く特別な5色の38mm ステンレススティール製タイムピースの中では、確かな精度であるコアクシャルマスター クロノメータームーブメントが鼓動を刻み続ける。自分とは何者なのか。必ずあなたにはあなたの物語と色がある。



SEAMASTER AQUA TERRA SHADES
Co-Axial Master Chronometer

Ω
OMEGA

#AquaTerraShades

銀座本店 / 六本木ヒルズ / 小田急新宿 / 西武池袋 / 伊勢丹新宿店
日本橋三越 / 心齋橋 / 阪急うめだ本店 / 大丸神戸店